

【MedTec Forum】 平成17年度大学説明会 & 高校生体験学習

東野 英利子 (人間総合科学研究科 / 臨床医学系)

平成17年度の筑波大学説明会は7月28日に行われた。晴天に恵まれたものの、非常に暑い日であった。参加者は看護学専攻、医療科学専攻合わせて592名にのぼった。学類長挨拶に引き続き、教育課程、進路・就職、入学試験について浦山先生、坂庭先生の説明があった。続いて太田敏子先生の新興・再興感染症についてのミニ講義があり、さらに3年在学の兵頭さん、山下さんから学生生活についての説明と質疑応答があった。昼食は臨床講堂ではとれないということで、弁当を外で食べているかたが多かった。雨が降らなかったのは幸いである。昼食時には筑波大学紹介のビデオ上映も行われた。午後は学類・研究室の見学紹介を行った。

昨年度は説明は別の学群棟で行われ、学類棟見学のために移動したとのことであるが、今年度は臨床講堂で行い、その点は非常によかったと思う。ただし看護学専攻との合同開催のため、医療科学専攻は臨床講堂Cのみしか使えず、予備椅子の使用、通路に座ることを余儀なくされてしまった。太田先生の目の前まで学生が押し寄せていたのは壮観であったが、やはり地震などの緊急事態を考えると危険であり、来年度は臨床講堂Aを使用するのびのびと行うようにしたい。

個人的には特に印象深かったのは研究棟の見学で、D棟の見学をさせていただき、免疫学、分子発生学、薬理学、遺伝学の新しい研究室を見せていただいた。いかにも大学の研究室という感じで、素晴らしかった。当初の予定よりも大勢が押しかけてしまい、ご迷惑をおかけしたかもしれない。この場を借りてお詫び申し上げます。研究棟へ行く途中で学生宿舎の公開が行われていた。平砂棟は私が筑波大学に入学する以前からある最も古い棟であり、受験生の印象は今ひとつだったかもしれない。もう少しきれいなところもあったのと思

う。願わくは参加者のうち一人でも多くが受験してくれることである。

高校生体験学習は8月17日に行われた。去年は午後まで行ったが今年は朝の開始時間を早め、午前中のみとした。共通講義として林啓子先生に「笑い与健康について」のミニ講義をしていただいた。林先生のお話はタイトルもよいが、講義というよりは実践を混ぜた講演で、非常に面白いものであった。実習としては医療科学専攻では、動物細胞を取り扱ってみよう(三好先生担当)、超音波でお腹の中をのぞいてみよう(東野担当)、癌のかたちを知ろう(長田先生担当)、血液細胞の働きを理解しよう(二宮先生担当)、血液中の酵素の働きを観察してみよう(桑先生担当)の5つのコースを開催した。私のコースでは超音波で画像を作る簡単な原理を説明した後に実際の超音波診断装置で肝、腎、胆嚢の観察を行った。それぞれ検者、被検者となって実習を行ったが、医療科学の学生と違って、体の中を見ることに対する羞恥心があるように感じられた。いつも行っていると通常の感覚を忘れてしまうのかもしれない。去年まではミニトマトやヤングコーンを入れたファントムを用いて行ったのだが、どちらがよかったのか、よくわからない。他のコースを拝見することができなかったが、アンケートを見る限りそれぞれに好評であったようである。今後これを継続するかどうかという問題もあるが、コンセプトとして、面白いに徹するのか、何らかを教えようとするのか、あるいは自分たちの研究を紹介するのかという部分を少しははっきりさせる必要があるかもしれないと思った。